

7 経営成績について（税抜き）

当年度の経営成績は、次のとおりである。

(1) 水道事業会計の損益の状況

（単位：円）

科 目		水道事業 (A)	鶴形簡易水道事業 (B)	合計（水道事業会計） (A) + (B)
営業 収益	給 水 収 益	724,866,572	6,829,523	731,696,095
	その他の営業収益	38,419,091	15,000	38,434,091
	計	763,285,663	6,844,523	770,130,186
営 業 費 用	原水及び浄水費	135,216,358	1,100,000	136,316,358
	配水及び給水費	50,278,057	1,295,039	51,573,096
	業 務 費	90,369,093	514,583	90,883,676
	総 係 費	15,880,907	4,880	15,885,787
	減 価 償 却 費	290,933,243	2,700,855	293,634,098
	資 産 減 耗 費	366,194	0	366,194
	計	583,043,852	5,615,357	588,659,209
営 業 損 益		180,241,811	1,229,166	181,470,977
営業外 収益	受 取 利 息	10,955	0	10,955
	他 会 計 補 助 金	20,601,869	1,066,340	21,668,209
	雑 収 益	744,493	1,450	745,943
	計	21,357,317	1,067,790	22,425,107
営業外 費用	支 払 利 息	172,710,459	1,938,800	174,649,259
	雑 支 出	1,515,573	634	1,516,207
	計	174,226,032	1,939,434	176,165,466
営 業 外 損 益		-152,868,715	-871,644	-153,740,359
経 常 損 益		27,373,096	357,522	27,730,618
特 別 損 益		-2,915	0	-2,915
純 利 益		27,370,181	357,522	27,727,703

水道事業会計の当年度純利益は、水道事業が27,370,181円、鶴形簡易水道事業が357,522円で合計で27,727,703円となっている。

また、水道事業会計の純利益の推移は次表のとおりである。

（単位：円）

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
純 利 益	28,691,843	22,176,888	27,295,329	8,043,891	27,727,703
前 年 度 比 較	-29,063,680	-6,514,955	5,118,441	-19,251,438	19,683,812
増 減 率（％）	-50.3	-22.7	23.1	-70.5	244.7

※平成18年度から鶴形簡易水道事業分を含む。

当年度の純利益は、前年度に比較して大幅に増加した。これは、給水収益が増となったほか、人件費及び企業債の支払利息が減となったことが、主な要因となっている。

(2) 水道事業の損益の状況

(単位：円、%)

科 目		2 1 年 度 (A)	2 0 年 度 (B)	比 較 増 減 (A) - (B)	増 減 率 $\frac{(A) - (B)}{(B)} \times 100$
営業収益	給 水 収 益	724,866,572	719,656,745	5,209,827	0.7
	その他の営業収益	38,419,091	38,115,101	303,990	0.8
	計	763,285,663	757,771,846	5,513,817	0.7
営業費用	原水及び浄水費	135,216,358	131,361,546	3,854,812	2.9
	配水及び給水費	50,278,057	47,231,674	3,046,383	6.4
	業 務 費	90,369,093	92,508,956	-2,139,863	-2.3
	総 係 費	15,880,907	24,140,401	-8,259,494	-34.2
	減 価 償 却 費	290,933,243	287,763,457	3,169,786	1.1
	資 産 減 耗 費	366,194	1,223,343	-857,149	-70.1
	計	583,043,852	584,229,377	-1,185,525	-0.2
営 業 損 益		180,241,811	173,542,469	6,699,342	3.9
営業外収益	受 取 利 息	10,955	0	10,955	皆増
	他 会 計 補 助 金	20,601,869	22,098,961	-1,497,092	-6.8
	雑 収 益	744,493	1,202,946	-458,453	-38.1
	計	21,357,317	23,301,907	-1,944,590	-8.3
営業外費用	支 払 利 息	172,710,459	187,872,296	-15,161,837	-8.1
	雑 支 出	1,515,573	1,528,271	-12,698	-0.8
	計	174,226,032	189,400,567	-15,174,535	-8.0
営 業 外 損 益		-152,868,715	-166,098,660	13,229,945	8.0
経 常 損 益		27,373,096	7,443,809	19,929,287	267.7
特 別 損 益		-2,915	-11,255	8,340	74.1
純 利 益		27,370,181	7,432,554	19,937,627	268.2

水道事業の営業損益は180,241,811円の利益で、前年度に比較して6,699,342円（3.9%）の増となっている。これは、給水収益の増のほか、人員配置見直しによる人件費の減少が主な要因である。

営業外損益は152,868,715円の損失で、企業債の繰上償還による支払利息の減により、前年度に比較して13,229,945円（8.0%）損失額が減少している。

この結果、特別損失2,915円を差し引くと、当年度純利益は27,370,181円となり、前年度に比較して、19,937,627円（268.2%）の増となっている。

①営業収益

給水収益の決算額は724,866,572円で、前年度に比較し5,209,827円（0.7%）の増である。この主な要因は、前年度で、濁り水に伴う水量更正による給水収益の減があったためである。

その他の営業収益の決算額は38,419,091円で、前年度に比較して303,990円（0.8%）の増となっている。

給水収益の年度別推移は、次表のとおりである。

(単位：円)

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
給水収益	750,492,317	740,712,294	744,948,634	719,656,745	724,866,572
前年度比較	3,264,362	-9,780,023	4,236,340	-25,291,889	5,209,827
増減率(%)	0.4	-1.3	0.6	-3.4	0.7

②営業費用

営業費用の決算額は583,043,852円で、前年度に比較して1,185,525円(0.2%)の減となっている。営業費用の主な内容は、人件費(給料・手当・法定福利費)33,155,434円のほか、修繕費37,868,771円、委託料206,834,093円、減価償却費290,933,243円などである。

前年度からの増減の大きかったものは、修繕費が10,928,128円の増、減価償却費が3,169,786円の増、人件費が8,671,336円の減である。これは、導水ポンプ場関係装置等の修繕による増のほか、人員配置の見直しによる減、前年度の濁り水への対応費用が減となったことが主な要因である。

③営業外収益

営業外収益の決算額は21,357,317円で、前年度に比較して1,944,590円(8.3%)の減となっている。この内容は、一般会計からの補助金20,601,869円と雑収入である。

一般会計からの補助金の内訳は、次表のとおりである。

(単位：円)

項 目		金 額
第二期拡張事業に係る消火施設相当分		17,619,000
木材工業団地配水管布設相当分		1,008,568
山瀬ダム建設負担金に係る利子相当分	昭和58年度	63,399
	昭和59年度	54,763
	昭和60年度	53,037
	昭和61年度	237,275
	昭和62年度	459,092
	昭和63年度	807,202
	平成元年度	299,533
	小 計	1,974,301
合 計		20,601,869

これらの補助金は、それぞれ項目ごとに一般会計と協定が結ばれ、20～30年間で一定金額を繰り入れする内容となっており、原則として法令や国の通達で定める基準により繰り入れられるものである。

④営業外費用

営業外費用の決算額は174,226,032円で、前年度に比較して15,174,535円（8.0％）の減となっている。この主な内容は、企業債償還金の支払利息であり、繰上償還を行ったことにより、償還額が軽減されている。当年度の金額は172,710,459円と、営業損益の黒字180,241,811円の95.8％に相当する額となっている。

⑤特別損失

特別損失は、過年度損益修正損の2,915円で、過年度分の過誤納水道料金に対する還付金である。前年度に比較して8,340円（74.1％）減となっている。

(3) 鶴形簡易水道事業の損益の状況

(単位：円、%)

科 目		2 1 年 度 (A)	2 0 年 度 (B)	比 較 増 減 (A) - (B)	増 減 率 $\frac{(A) - (B)}{(B)} \times 100$
営業収益	給 水 収 益	6,829,523	7,057,314	-227,791	-3.2
	その他の営業収益	15,000	21,000	-6,000	-28.6
	計	6,844,523	7,078,314	-233,791	-3.3
営業費用	原水及び浄水費	1,100,000	1,120,000	-20,000	-1.8
	配水及び給水費	1,295,039	1,319,051	-24,012	-1.8
	業 務 費	514,583	493,157	21,426	4.3
	総 係 費	4,880	4,500	380	8.4
	減 価 償 却 費	2,700,855	2,657,242	43,613	1.6
	資 産 減 耗 費	0	0	—	—
	計	5,615,357	5,593,950	21,407	0.4
営 業 損 益		1,229,166	1,484,364	-255,198	-17.2
営業外収益	受 取 利 息	0	0	—	—
	他 会 計 補 助 金	1,066,340	1,066,340	0	0.0
	雑 収 益	1,450	0	1,450	皆増
	消 費 税 還 付 金	0	0	—	—
	計	1,067,790	1,066,340	1,450	0.1
営業外費用	支 払 利 息	1,938,800	1,938,800	0	0.0
	雑 支 出	634	567	67	11.8
	計	1,939,434	1,939,367	67	0.0
営 業 外 損 益		-871,644	-873,027	1,383	0.2
経 常 損 益		357,522	611,337	-253,815	-41.5
特 別 損 益		0	0	—	—
純 利 益		357,522	611,337	-253,815	-41.5

鶴形簡易水道事業の営業損益は1,229,166円の利益で、前年度に比較して255,198円(17.2%)の減となっている。営業外損益は871,644円の損失で、前年度に比較して1,383円(0.2%)損失額が減少している。

この結果、当年度純利益は357,522円で、前年度に比較して253,815円(41.5%)の減となっている。これは、給水収益の減が主な要因である。

(4) 損益関係指標

水道事業会計における損益関係指標の年度別推移は、次表のとおりである。

(単位：％)

区分	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	20年度 全国平均
営業収支比率	133.8	131.7	134.0	129.7	130.8	112.5
経常収支比率	103.9	102.8	103.7	101.0	103.6	107.6

◇営業収支比率

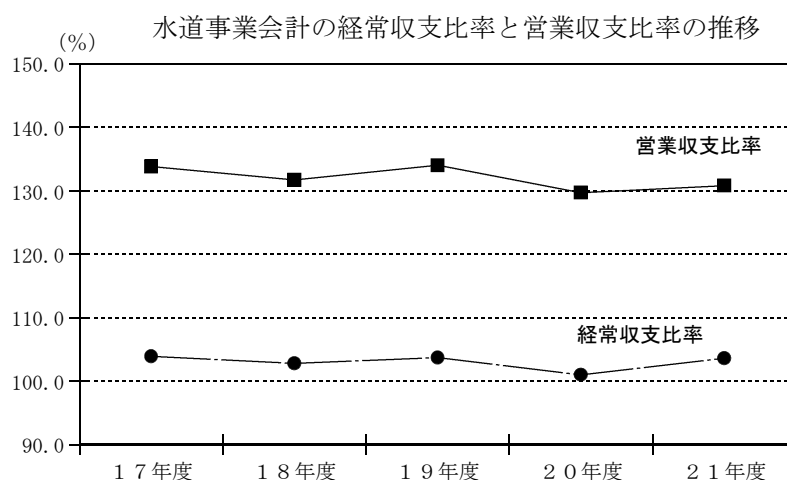
営業収支比率は、営業費用が営業収益によってどの程度賄われているかを示すもので、100%で収支均衡となるが、100%を大幅に超える必要があるとされている。

◇経常収支比率

経常収支比率は総収支から特別損益を除いたもので、経常的な経営活動の結果を示すものであると同時に、財政構造の弾力性を見るものである。この比率が高いほど支払い能力が高いことになり、100%以上であるときは経常利益が発生していることを示す。また、営業収支比率との差が大きいほど、営業外費用の支払利息の占める割合が大きいことを示し、財政構造が硬直化していることを表している。

平成21年度の営業収支比率は130.8%、経常収支比率は103.6%で、前年度と比較して営業収支比率は1.1ポイント、経常収支比率は2.6ポイントそれぞれ向上している。当年度の営業収支比率は、平成20年度の全国平均を上回っているが、逆に経常収支比率は全国平均を下回っている。

これは、企業努力等により営業収益はある程度確保されているが、営業外費用のほとんどを占める支払利息の割合が、全国の類似団体と比べて大きくなっており、企業債の借入が経営を圧迫していることを示している。



(5) 給水原価と供給単価

(単位：円)

区 分		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	20年度 全国平均
水道事業	供給単価 A	167.16	167.01	167.04	167.49	167.31	169.96
	給水原価 C + D + E = B	174.31	176.51	175.33	180.05	174.79	177.4
	資本費 C	97.51	100.82	106.23	110.70	107.01	—
	給与費 D	19.82	18.20	13.61	9.73	7.65	—
	その他の費用 E	56.98	57.49	55.49	59.62	60.13	—
	販売利益 A - B = F	-7.15	-9.50	-8.29	-12.56	-7.48	-7.44
鶴形簡易水道事業	供給単価 A	—	150.40	147.99	148.56	148.26	—
	給水原価 C + D + E = B	—	177.40	170.46	158.58	164.01	—
	資本費 C	—	100.88	101.53	96.75	100.72	—
	給与費 D	—	17.36	6.38	0.00	0.00	—
	その他の費用 E	—	59.16	62.55	61.83	63.29	—
	販売利益 A - B = F	—	-27.00	-22.47	-10.02	-15.75	—

(注) 消費税抜き、各項目とも有収水量 1 m^3 当たりの数値である。

給水原価は特別損失を含んでいない。資本費は (減価償却費 + 支払利息) ÷ 有収水量。

水道事業の供給単価は167.31円、給水原価は174.79円で、差し引き販売利益は7.48円のマイナスとなっているが、前年度に比較して、この「逆ざや」の幅が5.08円縮小している。これは、人件費及び支払利息の減に伴い、給水原価が下がったことが主な要因である。

鶴形簡易水道事業の供給単価は148.26円、給水原価は164.01円で、差し引き販売利益は15.75円のマイナスとなっており、前年度に比較して「逆ざや」の幅が5.73円拡大している。これは、有収水量の減が主な要因である。

水道事業の供給単価と給水原価の推移

